

2013年。また新しい1年が始まりました。現在会員登録数962人さま。ご愛読いただきありがとうございます。今年も当財団とメルマガをよろしく願います。次号は2月21日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 29

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

2011年度開催の「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」絵本の部入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第29回(2012年度開催)グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えます。

日 時：開催中～3月24日(日) *ただし、図書館の開館日時

場 所：(1)大阪府立中央図書館 1階エントランス

(2)大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

入場料：無料

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#2501tenji

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『パンとバラ ローザとジェイクの物語』 キャサリン・パターソン/作

岡本浜江/訳 偕成社 2012年9月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：1912年、アメリカのマサチューセッツ州ローレンスで起こった

「イタリア人移民労働者たちのストライキ」という歴史的事実を、父を亡くし、織物工場で働く母、姉と暮らすイタリア系の少女ローザと、飲んだくれの父親と暮らし、織物工場で働く13歳の少年ジェイクの視点で描いた作品。ローザはストライキの間、ベリーに住むイタリア人夫婦に預けられることになるが、父を亡くしたジェイクもその汽車に乗り込み、ローザの弟だと名乗り、逃亡する機会を待つ。

- ：パターンらしい豊かな物語性を持った作品でしたね。
- Y：読みながら、匂いや味、周りの空気などをローザとジェイクの視点で感じながら読むことができたため、読み終わってもしっかりとストーリーの記憶があります。
- ：おっかさんたちが闘ったストライキという歴史的な事実を丁寧に調べて相当な情報量が書かれているにもかかわらず、子どもがわかるように臨場感を持って描くことのできる文章力がすばらしかったです。人種、階層の違った人を登場させてストを立体的にとらえています。
- Y：ジェイクはいわゆる貧困層の白人ですし、ローザはイタリア系、ローザの家にはリトアニア人の移民が住んでおり、ジェイクは、アイルランド系の教会の人たちに助けられます。ストライキを先導するために演説する人たちや、ローザたちを預かったベリーに住むイタリア系の石工職人ジェルバーティさん夫婦も登場します。
- ：会話文もそれぞれの人物の思いや個性が読み取れました。例えば、知識階級のアメリカ人として固い信念を持ち、ストライキのことを批判するフィンチ先生とローザの会話など、絶妙でした。
- Y：そのフィンチ先生がストライキの後半、学校に来る子どもたちに朝ごはんを持ってくるのを、ローザが姉の便りで知るというシーンがあります。短い文章の中に、時代の波の中で生きるフィンチ先生の心の揺れが読み取れました。原タイトルは*Bread and Roses, Too* です。
- ：「パンだけでなく、バラも」と訳すこともできるでしょうか。ローザの母親の美しい歌声に象徴されるように、ローレンスの労働者たちが人間らしい暮らしを求めて団結し、生きる希望を持ち続けた状況が、タイトルに巧みに表現されています。
- Y：最後はローザの家族はみんな無事で、ローザ自身も帰宅することができ、ウイスキーのために死んだ父親を、自分が父親を殺したと思っていたジェイクも、ジェルバーティさんに嘘を告白し、家族の一人として受け入れてもらえます。
- ：すべてがハッピーエンドで終わるといってもやや出来すぎと言われかねない結末ですが、その「おはなし」らしさが読後の満足感につながってよかったです。王道とも言える伝統的な児童文学の流れを汲む物語の作られ方でした。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 29

その6 絵本の読み方（4）1冊の絵本を読む

今回は、一冊の絵本をどう読むかを考えます。

まず、表紙を見せます。そのとき、あせってタイトルを読まず、表紙が子どもに見えているか、子どもたちが表紙に注目しているか、読み手が絵本を読

む心の準備ができているかを確認してから、タイトルを読み始めます。

タイトルは、表紙の絵と合わせて作品全体を象徴しています。タイトルを読むときには、この絵本がどんなお話なのかをイメージし、そのことを聞き手に伝えようとして読むことが重要です。

次に作者を読みます。絶対に読まなくてはいけないということではありませんが、子どもたちは作者名を覚えていて、「ウンゲラーだ」とか「あ、また谷川俊太郎の訳だ」などと言います。絵本は作家によって創られたものであることを子どもに伝えるために、作者・訳者名を読むことは意義のあることだと考えます。また、その間、表紙をじっくり見てもらう機会にもなります。

表紙をめくると見返しがあります。表紙が門とすれば、見返しは扉に到る小径です。「これからお話が始まりますよ」という期待感を持たせるようにめくっていきます。次をめくると玄関に相当する「とびら」があります。私は、とびらで再度タイトルを読みます。それは、「いよいよストーリーが始まりますよ」ということを伝えるためと、とびらの絵もゆっくり見てもらってから作品世界に入って欲しいと思うからです。

そして、とびらをめくるとおはなしが始まります。冒頭文の読み方は特に丁寧に読みましょう。これが物語世界の入口になり、ここでつまずいてしまうと、クライマックスになるまで集中できない子どももでてきます。一般的に、冒頭文には、「いつ、どこで、だれが、どうした」という状況設定が書かれています。聞き手の中に状況がしっかりイメージできることが物語を楽しむ条件となります。

それからは、ページをめくりながら作品を読んでいきます。その際に1ページごとに読むのではなく、全体を大きくとらえた上で、どの部分を読んでいるのかを意識しながら読むことでまとまりができます。

クライマックスは、物語が盛り上がるように読みます。すると、自然に読む速さが変わったり、声のボリュームが上がったりします。ページのめくり方にも変化が出てきます。

最後は、物語世界が終わるということが伝わるように余韻がでるように読みます。そして、見返し、裏表紙（裏表紙と表紙の絵がつながっている場合は広げて）を見せた後、表紙をじっくり見せ、再度タイトルを読んで終わります。

* 次号は「その6 絵本の読み方（5）『どろんこハリー』を例にとって」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。
（Y）

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース 篇9回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

● 岡山県立図書館 電子図書館システム デジタル岡山大百科 カバヤ文庫

<http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/follist-jp/kyo/M2004070112153110000>

カバヤ文庫は、昭和27年から29年まで、週1冊のペースで159冊が刊行された、日本や世界の名作シリーズです。

発行元は、岡山に本社があるカバヤ食品。当時、カバヤのキャラメルを買うと文庫券（点数カード）が入っており、50点集めると1冊の本と交換できました。昭和20年代生まれの方は、カバヤのキャラメルと児童文庫はすぐに結びつくのではないのでしょうか。

第1巻第1号は、ペローの『シンデレラひめ』。表題作の他に、「森の中のねむりひめ」「おやゆびこぞう」が収録されています。

シリーズの全作品一覧は、カバヤ食品の次のサイトに掲載されています。

http://www.kabaya.co.jp/histo/histo_book2.html

古今東西の名だたる作品が勢ぞろいしています。著作権切れを意識した、ごく定番のラインナップともいえますが、しかしこれだけのものを付録として用意することは並大抵のことではありません。また、中野好夫、堀口大学、桑原武夫、今西錦司等、一流の作家・翻訳者・研究者がはしがきを書いているという豪華さ、ユニークさ。オマケとはいえ、作り手側の気概を感じます。

そのカバヤ文庫を含む、170冊を超える資料を見ることができるのがこのサイトです。当時、多くの人が熱中し、そのコレクションに血眼をあげたこのシリーズも、現在では珍しい部類。なかなか全貌を見ることは容易ではありませんが、このサイトによって懐かしいあの頃の作品に出会えます。（J）※次号は、一次画像データベース篇〈その10〉の予定です。

《4》 行って来ました！

梅田ガーデンシネマで公開中の「ドキュメンタリー映画 100万回生きたねこ」を観てきました。絵本『100万回生きたねこ』（講談社 1977年）は、2010年11月にガンで亡くなった佐野洋子さんの代表作ですが、出版されて35年経った現在も世代を超えて読み継がれています。この映画は、佐野さんの姿を映さないという約束で取材が始められ、声だけで出演しています。佐野さんは映画が完成する前に亡くなりました。

映画はじっとこちらを見つめる猫の映像で始まりました。『100万回生きたねこ』のストーリーを追いながら、いろいろな年代の女性たちが、絵本に重ね合わせるようにして自分の心に抱える傷や悩みなど、思いを語る映像で紡がれています。

孤独な子ども時代を送ったという自傷の傷のある女性、子どもにこの本を読むには「死ぬ」ということを説明しなければならないと悩む女性、若くして子どもを産めない体になった女性、兄妹のように育った夫を亡くしたばかりの女性、母親のおなかの中の赤ちゃんに話しかけ、絵本をたくさん読んであげると約束する9歳の女の子などが、それぞれの場所で思いを語り、そのところどころに佐野さんの言葉がちりばめられています。

佐野さんの言葉は、この絵本ができた経緯や、幼いころ亡くした兄のこと、幼少時を過ごした北京のこと、ガンであることを受け入れている様子、人は何のために生きるのかなどが語られており、生きることや死ぬことや生まれてくる命についての女性たちのエピソードと共鳴していました。

佐野さんは、猫が一匹の猫と出会い、子を産み、やがて死ぬという、ただそれだけの物語だと言っていますが、映画を観終わって、「自分の人生を自分らしく生きる」ということを強く感じました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 和泉のお話を聞こう ～葛の葉ものがたり～

第1部 紙芝居「しみずのはごろも」 かげえ「葛の葉ものがたり」

第2部 野あそびコーナーなど 草の虫作り

日 時：2013年2月10日（日）午後1時～3時

会 場：ゆう・ゆうプラザ（人権文化センター）5階和室（和泉市伯太町）

定 員：50名 申込先着順（保育なし）

参加費：無料

主 催：和泉市立人権文化センター図書室（にじのとしょかん）

● 公開講座「図書館が変われば日本が変わる！

～地域住民に必要とされる図書館をめざして～

第1部 講演会 講師：小林隆志（鳥取県立図書館支援協力課長）

第2部 交流会 「図書館大好き!! 図書館について話しましょう！」

日 時：2013年2月12日（火）午前10時～午後3時

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定 員：第1部 250名 第2部 60名

参加費：無料 ただし資料費要

主 催：大阪府子ども文庫連絡会

● 「大阪国際児童文学館を語る会・考える会 2013」

ーすべての子どもに本のよろこびをー

第1部 「児童文学の昨日、今日、明日」 講師：那須正幹（児童文学作家）

第2部 意見交流会

第3部 馬頭琴コンサート 演奏者：「生音空間」岡林立哉

日 時：2013年2月16日（土）午後1時30分～4時30分

会 場：エル・おおさか本館 2階文化プラザ（大阪市中央区北浜東）

参加費：有料 申込み：必要

主 催：大阪国際児童文学館を育てる会

共 催：財団法人 大阪国際児童文学館 後 援：大阪府子ども文庫連絡会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『パンとバラローザとジェイクの物語』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.29プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は2月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

真新しいカレンダーは、気分もすっきりリスタートさせてくれる。私ども財団法人 大阪国際児童文学館は、3年前にまさに新生・船出したが、2回目のリスタートの春が目前に迫っている。さて、どう進むべきか……。胸に手を置けば、「小なれども弱にはならず」気概はまだある。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
